グッドカンパニー大賞受賞企業に見る優良中小企業事例

グッドカンパニー大賞

１．公益社団法人中小企業研究センターについて

- 設立　　1966年
- 会員数　　各種産業界、中小企業関連団体等５７法人
- 理事長　　林信秀（みずほ銀行　常任顧問）
- 事業内容　調査研究事業・表彰事業（グッドカンパニー大賞）

２．グッドカンパニー大賞について①

- 資格　　資本金3億円以下（上場企業、資本金3億円超の会社の子会社・関連会社を除く)
- 推薦団体　　全国の経済産業局、文科省、商工会議所（連合会）、商工会(連合会)、東京・名古屋・大阪中小企業投資育成等
- 表彰の種別　　グランプリ、優秀企業賞、特別賞、新技術事業化推進賞
- 受賞企業数　　７１１社（その後約1割が上場）

2．グッドカンパニー大賞について②

- 選考基準　以下の3点を重視

(1)過去3年間の業績推移

収益性、安定性、伸び率等

(2)特色ある経営

オリジナリティのあるビジネスモデル・技術、市場創出、流通改革、環境・地域への貢献等

(3)成長性

将来的にも成長が期待できるか等

※新技術事業化推進賞は技術の独創性・将来性等

ちなみに第1回授賞式（昭和42年度）…

受賞者（左より）

京都セラミック㈱	稲盛社長
㈱笹倉機械製作所	笹倉社長
㈱林製作所	林 社 長
古野電気㈱	古野社長
武藤工業㈱	武藤社長

第13回（昭和54年度）

（前列左から）
少覚　㈱サークル鉄工社長
船後　中小企業金融公庫総裁
斎藤　中小企業振興事業団理事長
左近　中小企業庁長官
松澤　理事長
今里　審査委員長
西本　ノーリツ鋼機㈱社長
鈴木　㈱鈴木製作所社長
高橋　東京中小企業投資育成㈱社長
（後列左から）
松田　内外カーボンインキ㈱社長
[illegible]　㈱磯輪鉄工所社長
[illegible]　山本防塵眼鏡㈱社長
[illegible]　日本企業工業㈱社長
山田　㈱ワイエス磁器管製作所社長
[illegible]　㈱ディスコ副社長
柴田　日本植生㈱社長
中山　㈱中山鉄工所社長

第42回（平成20年度）

表彰式

（前列左から）
和田　経済産業技術総合研究所産学官連携推進部門長
池田　名古屋中小企業投資育成㈱社長
関谷　理事・審査委員長
数井　中小企業庁経営支援部長
山本　理事長
中村　日本商工会議所専務理事
大戸　理事・研究委員長
前田　㈱中小企業基盤整備機構理事長
小出　東京中小企業投資育成㈱常務

（後列左から）
桂　㈱カツラ・オプト・システムズ社長
石橋　㈱石橋製作所社長
福崎　㈱大昌鉄工所社長
篠原　しのはらプレスサービス㈱社長
山田　㈱ティーピーエム社長
木ノ本　木ノ本伸線㈱社長
小松　㈱小松精機工作所社長
中江　紀州ファスナー工業㈱社長
朝日　アサヒフォージ㈱社長
山名　㈱アドバンテック社長
山崎　㈱山崎技研社長
大川原　大川原化工機㈱社長
河野　武生特殊鋼材㈱社長

３．最近の受賞企業例

過去3年間の受賞企業

	2020年度			2019年度			2018年度		
グランプリ	㈱テクノア	岐阜県	業務用パッケージソフトウェア開発・販売	オリオン機械㈱	長野県	産業機器、酪農機器の開発製造メンテナンス	㈱シノテスト	東京都	臨床検査薬及び機器開発製造
	㈱湯山製作所	大阪府	調剤機器、電子カルテシステム開発・製造・販売	兵神装備㈱	兵庫県	産業用ポンプ、周辺機器の製造	ヨシダエルシス㈱	和歌山県	畜産用資材及び機械器具製造、鶏舎及び倉庫等建築
優秀企業賞	産電工業㈱	宮城県	電気設備工事業	㈱ボルテックスセイグン	群馬県	運輸業、倉庫業、通関業、特定派遣業	村田発條㈱	栃木県	自動車部品用金属ばね開発製造
	㈱エステーリンク	新潟県	精密板金加工、バリ取り機等環境関連機器の製造	㈱ＳＨＩＮＤＯ	福井県	繊維事業、産業資材事業、シリコーン事業	ハナマルキ㈱	長野県	味噌醸造、即席みそ汁・調味料・食品素材製造
	㈱はくばく	山梨県	大麦等の穀物関連製品の製造販売	㈱岩田製作所	岐阜県	一般産業機械部品の開発製造	北星ゴム工業㈱	富山県	工業用ゴム製品製造
	エビス㈱	奈良県	歯ブラシ及びプラスチック家庭用品の製造・販売	㈱アーテック	大阪府	学校教材、知育玩具等企画製造	日進工業㈱	愛知県	自動車向け樹脂製品成形加工・溶着加工
	小西化学工業㈱	和歌山県	機能性化学品の開発・製造・販売及び受託製造	伊東電機㈱	兵庫県	コンベヤー用モータローラ、制御機器等開発製造	㈱ピカコーポレイション	大阪府	アルミ合金製品製造
	㈱たねや	滋賀県	和菓子・洋菓子の製造販売、喫茶・食事	サラヤ㈱	大阪府	家庭用・業務用洗浄剤、消毒剤、食品等開発製造	ミツワ電機工業㈱	大阪府	マグネシウム成形品製造、業務用電気機器組立
	㈱アイグランホールディングス	広島県	保育サービス事業他	オーエヌ工業㈱	岡山県	ステンレス鋼製配管材の製造	㈱英田エンジニアリング	岡山県	駐車場機器、冷間ロール成形機、破砕用刃物製造
	㈱くまさんメディクス	熊本県	半導体製造装置製造業	協和機電工業㈱	長崎県	水処理プラント建設、電気制御監視システム建設	清本鐵工㈱	宮崎県	一般機械器具製造、機械メンテナンス、鋳鋼業
	㈱友桝飲料	佐賀県	清涼・健康飲料・酒類の企画・開発・製造・販売						
特別賞	コンチネンタル㈱	富山県	板金加工業	㈱共栄鍛工所	新潟県	熱間型打ち鍛造品、鍛造・プレス金型の設計製作	㈱アクタ	福岡県	プラスチック製食品容器等製造
	㈱サンシン	新潟県	超仕上げテープ式研磨装置の開発、製造、販売	築野食品工業㈱	和歌山県	米ぬか由来のこめ油、機能性成分、工業油脂開発製造	柏原計器工業㈱	大阪府	水道メーター製造・修理
	㈱筑水キャニコム	福岡県	農業・土木建設・林業用運搬車、草刈作業車製造販売	㈱ミクロ発條	長野県	精密小物ばね製造	㈱呉竹	奈良県	墨、書道液、筆ペん、マーキングペン等製造
	㈱南信精機製作所	長野県	精密プレス品・精密成形品・複合加工品の製造販売	㈱モトックス	大阪府	酒類専門商社(輸入ワイン、全国地方銘酒・焼酎・泡盛)	高橋畜産食肉㈱	山形県	蔵王牛・山形牛等の食肉卸・小売
	藤井精工㈱	福岡県	金型設計・製造、医療機器製造	㈱ヤマサキ	広島県	ヘアエッセンス、トリートメント製造販売	㈱ピアズ	東京都	店舗コンサルティング、販売員育成、人財・ＩＴ・経営ソリューション
新技術事業化推進賞				㈱芝技研	神奈川県	シリコン・ガラス等硬脆性材料の精密微細加工	㈱ヘルスケアシステム	愛知県	郵送検査キット販売、受託分析、臨床検査企画運営

オリオン機械株式会社

所在地　長野県須坂市
事　業　産業機器、酪農機器の開発・設計・製造・販売・メンテナンス
設　立　1946年
資本金　10,000万円
年　商　336億円(2019年3月期)
従業員　791名

- 1946年金属切削加工の下請業者として創業。経営の安定と社員の幸せのため、自社製品の開発に着手。後発ではなく「常に他より一歩先んじる」信念で製品開発を進め、そのニッチ市場開拓は現在に至る。
- 57年国産初の「オリオン電気搾乳機」を開発。米国製の搾乳機を研究し、既存の真空技術を用いた初の自社ブランド製品であり、高価な輸入品に比べて安価で、国内酪農家の好評を得る。その後酪農の自動化・機械化に取り組む中で、故障が許されない搾乳作業をサポートする販売・サービス網を全国に構築し、トップメーカーとなる。
- 65年酪農機器で培った真空・冷凍技術を応用した製品を開発し、産業機器分野へ進出。チラー(水の循環で産業機器を冷却)、エアードライヤー(空気中の不純物除去)等でニッチ市場トップに。顧客ごとの仕様に合わせた多品種少量生産を強みとしている。ブランドスローガン「冷凍と真空でイノベーション」のもと省エネ製品の開発を進め、低炭素社会実現に貢献。
- 社員の幸福と社会への貢献、企業の繁栄のための経営を実践。創業以来業績低迷期にもリストラせず、継続的な採用を実施し地域雇用にも高く貢献。全員経営と衆知の結集が社風として浸透、今後の更なる発展が期待できる。

オリオン機械株式会社
～ニッチトップの酪農機器・産業機器メーカー

飛躍の転機

- 酪農機器で培った真空技術・冷凍技術を応用、産業機器分野で多くの
  ニッチトップ製品を生み出す
- 事業承継時に「全員経営と衆知の結集」、タテ割り組織から横断的な組織に

⇒管理職の必須要件に「内部監査員資格」取得を義務付け

- ルートセールスによる製品の販売と合わせサービス事業に注力

経営の特色

- 多くのニッチトップ製品あり（チラー、エアードライヤー、精密空調機...）
- 内部監査員資格取得者は管理職含む100人以上
- 酪農関係の半分がルートセールスによるアフターマーケット

ミツワ電機工業株式会社

所在地　大阪府羽曳野市
事　業　マグネシウム成形品製造、
　　業務用電気機器組立
設　立　1959年
資本金　9,800万円
年　商　70億円（2018年3月期）
従業員　279名

- 1959年創業。早川電機工業㈱のテレビ部品等プラスチック成形品の色入れ・塗装を手掛ける。62年プラスチック成形事業に参入、家電業界の市場拡大とともに当社も売上伸長。
- バブル崩壊後、危機的な経営状況となるなか、シャープ1社依存からの脱却を目指し、98年マグネシウム合金の射出成形事業を開始。マグネシウムの軽量性、電磁シールド性等の素材特性に将来性を見出すとともにプラスチック成形技術の応用ができることから参入。99年携帯電話部品(ガラケーの筐体)、2000年デジタルカメラ部品の生産開始。
- 国内の主力事業はマグネシウム事業。デジタル一眼レフやミラーレス等の中高級機種向け外装部品を、国内カメラメーカー全社に供給、国内シェア約7割。金型設計から成形・機械加工・表面処理・塗装・最終検査まで独自の生産技術を開発、一貫生産体制を構築している。自動車部品や医療機器部品等の新分野にも取組み、自動車部品ではドイツの高級自動車メーカーが20年新車採用を決定。
- バブル崩壊後経営危機に陥るなか、コア技術を生かせる新事業分野を見出し事業の柱に発展させるなど、時代の流れを見極め経営の刷新を図ってきた。今後の更なる発展が期待される。

ミツワ電機株式会社
～マグネシウム合金製カメラ部品トップ

飛躍の転機

- シャープの下請け　⇒　バブル崩壊後、経営危機に
- マグネシウム合金の射出成型事業開始
  マグネシウム合金の軽量性、電磁シールド性の素材特性に将来性を見出す
- 最初はガラケーの筐体　⇒　スマホになり電磁シールド性がネックに
- ガラケーからカメラへ

経営の特色

- デジタル一眼レフやミラーレス等の中高級機種のカメラ外装品の国内シェア７割
- マグネシウム合金の将来性を見出し、ガラケー⇒カメラ⇒自動車部品、医療機器部品へと事業領域を変遷

株式会社アクタ

所在地　福岡県古賀市
事　業　プラスチック製食品容器等製造
設　立　1955年
資本金　4,700万円
年　商　27億円（2017年12月期）
従業員　155名

- 伝統工芸「博多曲物」作りで江戸期創業。1955年法人化し、本格的な容器の製造・販売を開始。
- 62年にポリスチレンペーパー（PSP)の国内生産が始まると、加工し易さ・衛生面にいち早く着目。翌63年PSPトレー加工技術を導入し、容器の素材を木材からPSPに転換。最初のヒット商品は弁当箱内の漬物を仕切る「三角コーナー」。83年接着剤を使わず、熱処理加工で仕切を一体成形したプラスチック製折箱容器「新折」開発。和食タイプの大量生産容器としてコンビニで採用され業績拡大するも、2007年に火災による工場焼失や利益体質への転換のためのコンビニ・大手スーパーからの撤退で売上激減し、赤字に。
- 組立式ワンタッチ折箱「ワン折」の駅ナカ・デパ地下等、新分野への販売注力で1年でV字回復。高いデザイン性・機能性・省スペースが評価され、高級弁当・総菜の容器として採用拡大。取引先ニーズに柔軟に対応した多品種小ロット生産は当社の強み。
- 5年ごとに開発コンセプトを掲げ、社員がアイデアを出し新たなものを生み出すことにチャレンジする社風。現在は「和力」をコンセプトにおもてなしの心を表現した新商品も開発中。
- 伝統技術をベースにプラスチック成形加工の技術を生かし、独自のコンセプトでアイディア豊かな商品の提供にチャレンジし続けており、今後の更なる発展が期待される。

株式会社アクタ
～経営危機から独自アイディアでV字回復

飛躍の転機

- 「博多曲物」で江戸期創業
- プラスチック製折箱容器開発、コンビニに採用され業績拡大
- コンビニの商品ライフサイクルの短命化　⇒　在庫負担、金型負担が増大
- コンビニ・大手スーパーから一気に撤退、工場火災もあり売上激減、赤字に
- 組立式ワンタッチ折箱が駅ナカ・デパ地下で採用され、業績V字回復へ

経営の特色

- 売上減・赤字覚悟で経営方針を一転

株式会社呉竹

所在地　奈良市
事　業　墨、書道液、筆ペン、マーキングペン等製造
設　立　1932年
資本金　7,053万円
年　商　54億円（2018年5月期）
従業員　265名

- 1902年奈良の伝統産業「奈良墨」造りで創業。
- 58年学校関係者の書道の練習時間を少しでも多く取りたいとの要望に応え、液体墨「墨滴」を開発。書道人口には限りがある上、「墨滴」が売上の大半を占めているという経営的な懸念から「書く」分野への進出を目指し、63年に「サインペン」、73年にサインペン開発の技術と墨造りの伝統を生かし「くれ竹筆ぺん」を開発、大ヒットする。86年にはゴルフ場向け融雪剤「SRブラック」を開発し、産業用途分野にも進出。
- 液体墨で培った「超微粒子高分散技術」をコア技術として筆記用具から融雪剤・導電性塗料・着色剤、さらに筆ぺん開発の技術を生かしアイライナーまで多様な水平展開を図り、アイテム数は1万点を超える。その後、事業領域を「アート＆クラフト」と定め、スクラップブッキングなど芸術分野に注力。当社のペン・筆ぺんの特徴は多色展開とペン先の太さの豊富なバリエーション。和テイストの滲みや擦れを表現できる当社筆記具は世界的にも人気高く、輸出額は売上の3割に上る。
- また時代に先駆け08年に社内託児所を設けるなど女性が活躍し易い企業風土で、社員の半数以上は女性が占める。
- 伝統産業である墨造りを守りながら、製品開発で培った技術を基に多様な事業の水平展開を進めてきた。今後の更なる発展が期待できる。

株式会社呉竹
～伝統産業の技術を発展、事業をヨコ展開

飛躍の転機

- 創業1902年でも奈良墨作りでは後発
- 戦後、書道人口の減少
- 学校関係者の「書道の練習時間を少しでも多くとりたい」との要望
- 液体墨「墨滴」開発　⇒　「書く」分野全般へ、「超微粒子高度分散技術」を応用し事業領域拡大へ

  …くれたけ筆ペン、ゴルフ場向け融雪剤、導電性塗料、アイライナー…

経営の特色

- コア技術の「超微粒子高度分散技術」を様々な事業にヨコ展開

株式会社ミクロ発條

所在地　長野県諏訪市
事　業　精密小物ばね製造
設　立　1957年
資本金　5,000万円
年　商　12億円（2019年3月期；9か月決算）
従業員　110名

- 1954年カメラ用ばね生産で創業。70年代後半のNCマシン自社開発の成功を機に、81年をピークにカメラ用ばねの需要が少なくなる中、「精密・極細」で生き残りを図り電子機器業界に進出。
- 90年代後半、文具メーカーからの要請に基づき中性ボールペンのペン先(ボール)を支えるチップばねを開発、自社開発NCマシンにより量産化に成功。その後半導体、医療、自動車分野にも進出。
- 半導体検査装置用ばねは外径0.1mm以下の世界最小クラスの最微細ばね。半導体の電子回路に電流が流れているかを検査する装置に用いられている。現在は外径0.06mmのばねの製造に着手。世界トップシェアのボールペン用チップばねは毎月数千万個生産し、国内をはじめ海外はスイス、フランスのメーカーにも供給。
- 熟練工の技術を取り込んだ自社開発NCマシンは独自の稼動表示板システムにより、24時間無人による変化点管理を実現。上海、大連、マレーシアの工場合わせ約700台が稼動。また医療分野での産学連携を積極的に推進。
- 「MADE IN SUWA」にこだわり、技術開発の基盤はあくまでも諏訪。精密部品の工業集積地である諏訪地域において精密・微細ばねの製造技術を極めたトップ企業として、今後の更なる発展が期待できる。

株式会社ミクロ発條
～世界最小のバネを大量生産

飛躍の転機

- カメラ用ばね生産で創業も徐々に需要減退　⇒　より小さなバネに挑戦し「精密・極細」で生き残りを図る。
- ９０年代後半、中性ボールペンのペン先（ボール）を支えるチップばねを開発、自社開発NCマシンで量産化に成功

経営の特色

- ボールペン用チップばねで世界トップシェア
- 世界最小（外径0.05mm）のバネ生産も成功
- MADE in SUWAに拘り、技術開発の基盤はあくまで諏訪

株式会社岩田製作所

所在地　岐阜県関市
事　業　一般産業機械部品の開発・製造・販売
設　立　1966年
資本金　9,912万円
年　商　26億円（2019年9月期）
従業員　118名

- 1964年スプロケット(鎖車)生産で創業。
- 80年代需要減少で業績低迷する中、現社長主導で進めたのが隙間分野に的を絞った商品戦略。当時機械メーカーが内製していた機械要素部品のセットカラー、トリム、シムの標準品を国内で初めて生産。品揃えの豊富さと納期・品質の信頼性で顧客の信頼を獲得する非価格競争で業積伸展。
- 2008年リーマンショックにより大きく売上減少するが、社内設備を自社開発し内製化を進めコスト競争力の向上を図るなど企業体質を強化。主たる製品は、主にシャフトに取り付け位置を固定させる「セットカラー」と高さや隙間を調整する「シム」で売上の約5割を占める。機械要素部品のほか安全対策品、塗装治具等含め、標準品の品揃えは約3万2千点。
- 「一番大事なのは社員、二番目に仕入先、三番目にお客様」と社員第一の経営方針。私用でのスマホを止めた場合の「デジタルフリー奨励金」や読書を促す「ビブリオバトル」等様々なアイデアで社員の成長を後押しし、社員目線での福利厚生制度見直しも積極的に取り組む。
- 隙間分野に的を絞った豊富な品揃えと短納期体制を構築し、内製化・自動化により高付加価値化を実現。社員第一の経営による小さな差別化の積上げにより強い企業体質を作り上げており、今後の更なる発展が期待できる。

株式会社岩田製作所
～社員の成長を後押しする機械要素部品メーカー

飛躍の転機

- メーカーが内製していたすき間部品を日本で初めて規格化
- リーマンショック後、内製化によるコスト競争力強化
  ⇒　耐えていたらライバルがどんどん減っていった

経営の特色

- 社員の成長を後押しすることで高収益企業に
  - ・私用スマホを止めた場合の「デジタルフリー奨励金」
  - ・読書を促す「ビブリオバトル」
  - ・若手社員への「新聞購読補助」
- 隙間分野に特化した商品構成（標準品品揃えは3.2万点）、
- 多品種・短納期で価格勝負を回避

日進工業株式会社

所在地　愛知県碧南市
事　業　自動車向け樹脂製品成形加工・溶着加工
設　立　1965年
資本金　9,900万円
年　商　83億円（2017年12月期）
従業員　286名

- 1945年日本人形の顔の樹脂製造を主たる事業とする長田織布創業。その後、自動車用精密樹脂部品事業に転換し、65年に当社設立。当初はフュ−エルカバーやキャニスター等が主であったが、材料の成分調整、成形技術・ノウハウを確立し、現在はエンジンバルブ等の機能部品やパワースライドドア・パワーシート等の車体系部品等、多品種小ロット・高品質の製品を開発・生産している。
- 80年業界に先駆けエンプラ、スーパーエンプラの成形加工着手。強度や耐熱性に優れエンジンバルブ等のメカトロ部品に採用。特にポリエーテルエーテルケトン(PEEK)樹脂の量産成形加工技術の確立により、2000年以降ブレーキ部品等への採用が飛躍的に増加、売上も大きく拡大。
- 15年独自開発のIoTシステムを導入した武豊工場建設。製造データの緻密な管理により、生産増量、歩留まり向上等生産性は飛躍的に向上。全ての成形機が同一システムで稼働、全工程がネット上で繋がり、リアルタイムでライン毎の生産状況が把握できる。また本社工場と武豊工場のほか、中国3工場とも繋がり、国内140台・中国3工場115台の稼働状況が管理されている。
- 新規採用・女性活躍・働き方改革にも積極的に取り組むとともに、「プラの塾」を設け現場を支える人材育成にも注力しており、今後の更なる発展が期待できる。

日進工業株式会社
～独自IoTシステム導入で生産性が飛躍的に向上

飛躍の転機

- 業界に先駆け、エンプラ、スーパーエンプラの成形加工着手、
  PEEK（ポリエーテルエーテルケトン）樹脂の量産加工技術を確立

経営の特色

- 独自開発のIoTシステムを導入した新工場
  中古スマホ、格安テレビ、ファミレスのブザー等を組み合わせた
  格安のIoT（日本商工会議所の「身の丈IoT」でも紹介）
  ⇒　チョコ停が激減、歩留まり向上で生産性飛躍的に向上

株式会社SHINDO

所在地　福井県あわら市
事　業　繊維事業、産業資材事業、シリコーン事業
設　立　1978年
資本金　3,000万円
年　商　52億円（2019年7月期）
従業員　236名

- 1970年創業。現会長がパリのショーウィンドウに飾られた洋服の副資材のカラフルさに感動、日本での市場の可能性を見出す。フランス・ドイツから機械・技術を導入し70年にテープ、リボン等の製造を始め、第２次ベビーブームに乗り赤ちゃん服のフリルが大ヒットし基礎を築く。
- 細幅繊維を中心にアパレル、スポーツ、包装資材向け等の服飾副資材を企画から織り、編み、染色、後加工まで自社一貫生産。オリジナルブランドのS.I.Cは商品点数約4.2万点に及ぶ。また世界最大のテキスタイル見本市プルミエールビジョンへの出展歴も長く、世界６都市の自社ショールームなどグローバルに展開。なお世界３大スポーツブランドとは企画から開発に参画。
- 「安いから買う」ではなく「欲しいから買う」製品作りと、「商品と流通の両立」を基本方針として厳しい繊維業界において優位性を誇っている。「会社のために人がいるのではなく人のために会社は存続する」を経営理念に創業以来リストラ行わず、女性活躍や障がい者雇用も積極的。
- 現会長が日本における服飾副資材普及の可能性を見出し事業化。豊富なオリジナル製品を生み出し独自のマーケット戦略を展開、世界的企業に発展。第二、第三の柱としてシリコーン事業、更には編み技術を活用し様々な強化繊維を使用した機能基材の産業資材事業を展開しており、今後の更なる発展が期待できる。

株式会社SHINDO
～織り編みの技術を応用、リボンから航空資材へ

飛躍の転機

- フランスのショーウィンドウに日本でのビジネスチャンスを見出す
- 第２次ベビーブームに乗り、赤ちゃん服のフリルが大ヒット
- 大きくなる前から世界最大のテキスタイル見本市に出展、グローバルな展開を見据える　⇒　現在では３大スポーツブランドに企画段階から参画

経営の特色

- 社員の雇用安定のために新たな事業に挑戦（シリコーン事業、産業資材事業）
- 「安いから買う」ではなく「欲しいから買う」と価格競争回避
- 「商品と流通の両立」が基本。（商品が良いだけでは売れない）

株式会社ピカコーポレイション

所在地　大阪府東大阪市
事　業　アルミ合金製品製造
設　立　1961年
資本金　9,500万円
年　商　90億円（2018年2月期）
従業員　263名

- 1958年アルミ製のはしご、脚立等の商社として創業。63年修理工場を建設。修理工場で培った技術力を基に三菱金属工業㈱と提携、自社製品製造開始、メーカーに転換。
- 73年滋賀工場建設。オイルショック勃発による大型タンカー造船需要増に伴い、軽量で丈夫なアルミ製足場が受注拡大し当社大きく飛躍。
- バブル崩壊後厳しい経営状態続くが、2008年量産品製造の中国シフトによるコスト低減及びより利益率の高いプロユース製品へのシフトにより業況は急速に回復。アルミ製はしご・脚立・作業台で国内トップシェアに。
- 当社売上の約8割が工場や建設現場などのプロユーザー向け。ピカプロユース、ピカオーダーメイドシステムの2つのブランドを展開。特にオーダーメイドは年間4,000件と、鉄道・航空宇宙・食品・薬品などの各種工場や物流倉庫等における作業用足場やステップ・作業台等を設計・製作し、安全快適な作業環境を提供。まさに日本の産業の足元を支えている企業。また、イベント会場・展示会場におけるアルミ製システムトラス・各種ステージも提供。当システムトラスは当社が業界に先駆けて開発したもの。
- 創業以来受け継がれてきたアルミ加工技術と顧客ニーズの蓄積を強みとして、はしご・脚立・作業台等のアルミ合金製品のトップ企業に発展。今後の更なる発展が期待できる。

株式会社ピカコーポレイション
～市場ターゲットを絞り大きく成長

飛躍の転機

- 大型タンカー造船増需要に伴いアルミ製足場が受注大きく拡大
- バブル崩壊後業績低迷

  ⇒　プロユース向け製品に注力、業績急回復

経営の特色

- 一般用からプロユース向けに軸足を移し価格競争を回避

  （オーダーメイドは年間4000件）

株式会社ヤマサキ

所在地　広島市
事　業　ヘアエッセンス、トリートメント製造販売
設　立　1973年
資本金　8,000万円
年　商　43億円（2019年2月期）
従業員　268名

- 1970年警察官であった現社長が地域に役立つ商売をと業務用洗剤の訪問販売で創業。
- 76年に海藻シャンプーの販売を始め、98年ロングセラーとなるラサーナ海藻ヘアエッセンス発売。その後、スキンケア製品、入浴剤・アロマなど天然素材に拘り商品ラインアップを拡大。
- 事業の転機となったのが2003年。それまで病院・学校等の職域販売が中心であったが、通販会社を通じ大量に試供品を配布。これが人気を呼び、翌年には売上高が倍増。
- 06年にコールセンターを備えた7階建本社、翌07年に広島市郊外に西風新都工場を建設。無人自動倉庫などIT物流機能を備えるとともに、発送ラインにはデジタルピッキングシステム(DPS)を導入し、複数商品を効率的に梱包、正確に発送している。また、年間3,000万包のサンプル生産能力は全国トップクラス。
- 大手化粧品会社の広告戦略と異なり、当社は「試供品(サンプル)を使ってもらい、商品の良さを分かってもらった後に、納得して購入して頂く」サンプリング販売が営業戦略の柱。全国のドラッグストアに営業マンが定期訪問し、サンプル配布と販売指導も行っている。
- サンプル製造設備を拡大し、DPS、無人自動倉庫など効率化を進めるとともに、営業力の一層の強化に取り組んでおり、今後の更なる発展が期待できる。

株式会社ヤマサキ
～サンプリング販売で大手と差別化

飛躍の転機

- もともとは地域の警察官。クリーニング店向け輸入商材で事業を始める
- その後、海藻シャンプーへ。03年、学校・病院等の職域販売中心から大借金をし、サンプルを大量作成、通販会社を通じて広く頒布
- 人気を呼び、翌年売り上げが倍増

経営の特色

- サンプリング販売が営業戦略の柱。広告戦略中心の大手と一線を画す。

株式会社筑水キャニコム

所在地	福岡県うきは市
事　業	農業用・土木建設用・林業用運搬車、草刈作業車の製造販売
設　立	1955年12月
資本金	10,000万円
年　商	63億円(2019年12月期)
従業員	278名

- 1948年現社長の祖父が家業の鍛冶業を引き継ぐ形で創業、当初草刈鎌等生産。農業用機械への参入を図り法人化。61年鋼板製農用トレーラー製造開始。
- 79年業界で初めて林業用運搬車を開発、その後土木建設用運搬車、更に93年草刈機を開発し、事業分野を拡大。海外展開に力を入れ、84年農業と林業が盛んで日本と地形の似ているスイスに販売拠点設置。2001年にアメリカに北米拠点を設置するなど積極的に海外展開を図り、現在46か国に進出。輸出割合は売上の4割を占める。
- 草刈機がメイン製品。平地用・山岳用・太陽光発電所用等多様な機種あり。農業用運搬車・林業用運搬車は国内トップシェア。当社のものづくりの原点は顧客の「ボヤキ」に徹底的に耳を傾けることにあり、他社と同じような製品は絶対に作らないことを開発方針としている。
- ユーザー目線で細部にこだわった設計、ものづくりに定評あり。また、全ての製品へのネーミング(「草刈機まさお」、「伝導よしみ」など)、当社販売先である農機具メーカーとは別の独自の新商品発表会や展示会の開催など、独自のマーケティング手法を展開。
- 「幸せをはぐくみ、満足を運ぶ人間集団」を企業理念として「ものづくりは演歌だ」との精神でものづくりを行っているユニークな企業。今後の更なる発展が期待できる。

株式会社筑水キャニコム
～顧客のボヤキを製品に活かす

経営の特色

- 「ものづくりは演歌だ」

  義理と人情を大切に、顧客と深く関わり合いながらの製品作り。

  商品を買った顧客を一人一人訪ね、クレームまでに至らない何気ない不満やボヤキをビデオカメラに収め、製品の改良に活かす。

- 特徴的なネーミング（ひと言で商品そのものを表す）

  「草刈機まさお」「伝導よしみ」「山もっとジョージ」「主役芝耕作」

  「ブッシュカッタージョージ」「ヒラリー」「そこまで刈っていいんかい」…

株式会社友桝飲料

所在地	佐賀県小城市
事　業	各種清涼飲料水・健康飲料等製造販売
設　立	1966年
資本金	3,000万円
年　商	101億円（2020年2月期）
従業員	153名

- 創業118年の清涼飲料メーカー。1902年ラムネ製造で創業。70年他社に先駆けて人工着色料から天然着色料に変更。
- 2000年飲料業界初「商品化サポート事業(友桝ODM事業)」開始。当該事業の一環として、03年「こどもびいる」を発売開始し「ビール様清涼飲料」という新市場を形成。さらに05年「スワンサイダー(復刻版)」をワンウェイ瓶を使い発売開始。地元の名産・名水を生かしたサイダーは「地サイダー」として全国各地に拡大。
- 12年日本初の天然水使用PETボトル無糖炭酸水「蛍の郷の天然水スパークリング」、15年世界最高峰ガスボリューム5.0強炭酸水「VOX」を開発。
- 飲料業界において数々の業界初の製品を世に送り出してきている。「友桝ODM事業」は商品設計からデザイン、パッケージ、販売支援に至るまでトータルで行い、1ケース24本からの小ロット生産を可能にする生産管理システムを構築。
- 「他の人より一歩先んじる」との創業以来の精神を大切にしており、大手が狙わない細分化した市場に着目しユーザー共創型の独自商品開発と小ロット多品種生産システムを構築。さらにNB、PB、ODM事業を展開、業界における独自のポジションを確立し大手との差別化に成功。本社工場移転後9年間で売上8.4億円から100億円に拡大。今後の更なる発展が期待できる。

株式会社友桝飲料
～他の人より1歩先んじる

飛躍の転機

- 昭和32年のコーラの輸入自由化、ビール会社の清涼飲料販売開始
  ⇒中小飲料メーカーの淘汰（大半が大手の委託工場に）
- 大量生産のマーケットでは戦えない⇒小さい商品セグメントで戦う
- ファブレス化が飲料業界でも起きるのでは？
  （大手は小ロット生産は断っている⇒顧客の飲料にしたい素材を使った商品にするには？）
- レンタルBOXの考え方を応用（生産ラインを「リース」する考え方）
  びん1本いくらPETいくら⇒製造量、販売価格は顧客主導で決定
  ⇒小ロットの地サイダーブームに

経営の特色

- 「他の人より一歩先んじる」

中小ながら「業界初」多い。「天然水使用PETボトル無糖炭酸水」「強炭酸水」…

伊東電機株式会社

所在地　兵庫県加西市
事　業　コンベヤー用モータローラ・制御機器・モジュール・
　　ユニットなど搬送関連機器の開発・製造・販売・設置
設　立　1965年
資本金　9,000万円
年　商　89億円（2019年3月期）
従業員　310名

- 1946年モーター修理業として創業。モーター及びモーター製造用機械の生産で事業拡大するも70年代オイルショックにより受注激減。下請けからの脱却を目指し自社製品開発に取り組む。
- 75年コンベヤ駆動用のMDR(モータ･ドリブン･ローラ：商品名「パワーモーラ」)を開発。内蔵されたモーター(交流電源)でローラ自らが回転する画期的製品。世界で初めて商品化し、ビデオデッキ組立ラインのスピードアップに寄与。
- 88年には安全性、経済性の高い直流電源駆動でブラシレスモーター搭載の「パワーモーラ24」を開発するも、バブル崩壊により販売は停滞。
- 大きな転機が98年。米国郵便公社での大量採用を契機に医療品・書籍・食料・医療等の様々な業界の搬送現場で採用。現在、モータローラ市場において国内シェア7割、世界シェア6割。特に米国でシェア高く売上の6割が輸出。近年はMDRを用いたモジュール、搬送システムへと進化。レイアウト変更が簡単かつIoTによるスマート工場化に親和性高い。またMDRの技術を活かしセル式モジュール型植物工場システムも開発、習志野市の地下共同溝で稼働中。
- MDRはスピード物流、マスカスタマイゼーション対応、スマート工場化に対応可能な「マテハンの万能細胞」。積極的に市場開拓、研究開発、海外展開の拡大等に取り組んでおり、今後の更なる発展が期待できる。

伊東電機株式会社
～MDRで搬送革命

飛躍の転機

- モーター生産がオイルショックで受注激減

  ⇒下請けからの脱却目指し自社製品開発に取り組む
- MDR（モータドリブンローラ）開発　⇒　ビデオデッキ組立ラインに採用され受注拡大するもバブル崩壊で売上低迷
- ９８年米国郵便公社で大量採用を契機に、様々な分野の搬送現場に採用

経営の特色

- MDRはスマート工場化に適した「マテハンの万能細胞」
- コンポーネント　⇒　モジュール　⇒　搬送システムへ
- モーターローラを活用し植物工場に応用

株式会社シノテスト

所在地　東京都千代田区
事　業　臨床検査薬及び機器開発製造
設　立　1953年
資本金　14,000万円
年　商　90億円（2018年3月期）
従業員　304名

- 1951年臨床検査薬キットを世界で初めて事業化。我が国の生化学分野における臨床検査薬のパイオニア。61年の国民皆保険導入以降、本格的に普及し事業が軌道に乗る。
- 86年国内初の無調製試薬として「液状試薬」を開発。自動分析機の普及により投入する試薬に正確な計量が求められる中、粉末試薬を溶液に溶かして使用する従来タイプの不正確性を解決し、当社飛躍の転機となる。
- 2010年本格稼働した相模原生産センターでは、原材料調達から製品出荷までの全工程に、バーコードによる管理システムを構築。人為的ミスを防ぐ徹底した工程管理と品質管理を実現。
- 毎年度年商の5%程度を新しい検査試薬の研究開発に投じ、免疫学的検査や遺伝子検査といった新分野の試薬開発も積極的に進めている。希少疾患向け試薬開発にも注力しており、中でも従来検査が難しいとされてきたギラン・バレー症候群向け試薬や、乳幼児に負担のない尿で検査が可能なサイトメガロウィルス感染症向け試薬の開発は社会的意義が大きい取組み。
- IT活用した独自の管理システム構築、多品種小量生産、積極的な研究開発、質の高い営業力と社員全員が一枚岩となり、生化学検査薬分野の上位メーカーで唯一の中小企業でありながら、国内2位のシェアを誇る。今後の更なる発展が期待できる。

株式会社シノテスト
～臨床検査薬のパイオニア

飛躍の転機

- 80年代、自動分析機の普及（少量の試薬で検査可能）・診療報酬点数引き下げ　⇒　経営圧迫
- 従来の粉末試薬では自動分析機に必要な正確な調合が困難

⇒　全社一丸となり国内初の無調整液状試薬を開発

経営の特徴

- 工場は全工程をバーコード管理・ペーパーレスで徹底的に人為的ミスを防止
- 希少疾患の検査薬開発への取組み

⇒　社会的意義の高さ、ドクターとのつながり